

槐

芥川龍之介

青空文庫

槐えんじゆと云ふ樹の名前を覚えたのは「石の枕」と云ふ一中節いちちゆうぶしの浄瑠璃じやうるりを聞いた時だったであらう。僕は勿論一中節などを稽古するほど通人つうじんではない。唯親父おやぢだのお袋ふくろだのの稽古してゐるのを聞き覚えたのである。その文句もんくは何でもなん観世音菩薩くわんぜおんぼさつの「庭にわに年経としへし槐えんじゆの梢こずゑ」に現れるとか何とか云ふのだつた。

「石の枕」は一つ家の婆ばあさんが石の枕いしのかまくらに旅人を寝かせ、路用ろようの金を奪ふ為ために上から綱つなに吊つつた大石おほいしを落おして旅人の命いのちを奪うばつてゐる、そこへ美しい稚児ちごが一人、一夜いちやの宿しゆくりを求めに来る。婆ばあさんはこの稚児ちごも石の枕いしのかまくらに寝かせ、やはり殺ころして金をとらうとする。すると婆ばあさんの真名娘まなむすめが私ひそかにこの稚児ちごに想おもひを寄せ、稚児ちごの身代りになつて死んでしまふ、それから稚児ちごは観世音菩薩くわんぜおんぼさつと現れ、婆ばあさんに因果いんぐわ報おうほうを教へる、この婆ばあさんの身を投なげて死んだ池いけは未だに浅草寺せんそうじの境内けいだいに「姥うばの池」となつて残のこつてゐる、——大体かう云ふ浄瑠璃じやうるりである。僕は少時せうじ国芳くによしの浮世絵うきよゑにこの話わの書かいたのを見てゐたから、「吉原八景よしかははつげい」だの「黒髪くろかみ」だのよりも「石の枕いしのかまくら」に興味を感じてゐた。それからその又国芳よしかの浮世絵うきよゑは観世音菩薩くわんぜおんぼさつの衣紋えもんなどに西洋画風せいやうがふうの描法べうほうを応用おうようしてゐたのも覚えてゐる。

僕はその後槐えんじゆの若木わかしきを見、そのどこか図案的な枝葉えだはを如何いかにも観世音菩薩くわんぜおんぼさつの出現しゆげんなど

にふさはしいと思つたものである。が、四五年前に北京まへペキンに遊び、のべつに槐ゑんじゆばかり見るこ
とになつたら、いつか詩趣とも云ふべきものを感じないやうになつてしまつた。唯青い槐
の實の莢さやだけは未だいまに風流だと思つてゐる。

北京ペキン

灰捨つる路は槐ゑんじゆの莢さやばかり

(大正十五年十月)

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

槐

芥川龍之介

2020年 7月17日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>